

キス。ペプチン神経系

生殖中枢制御に関係

東大が解明

東京大学大学院理学系研究科の岡良隆教授らは、キスペプチン神経系が生殖の中枢制御に関係している可能性が高いことを見いだした。メダカを対象に脳内を分析したところ、ホルモンを作り出す神経細胞の1種であるペプチドニューロンが生殖活動に影響していることが分かった。これに

より、脊椎動物における生殖と脳内メカニズムの解明につながることを期待される。

岡教授は、同じ研究室

の赤染康久助教、大学院生の神田真司氏と共同で研究を行った。

豊富な遺伝子データベースを持ち、哺乳類との

比較が容易なメダカをモデルに、ホルモンなどの内分泌を調整するニューロンの脳内分布を解析を進めた。産卵したメダカと産卵していないメダカの差異を調べると、前者の方がペプチドニューロンの数だけが多く、生殖活動の調節で重要な役割を担っているとの結論に達した。

今回得られたデータを基に、岡教授らは、遺伝子を改変したメダカを作成。仮説を補強するとともに、環境変化に応じた、生殖や性行動がどのように変化していくかを明らかにする考えだ。